

【小学校 総合的な学習の時間】

大宮のまちの未来を考える
～わたしたちのまち 大宮～

奈良市立大宮小学校 池見 繁

1. 単元名 「大宮のまちの未来を考える ～わたしたちのまち 大宮～」

2. 単元の目標

○大宮のまちの良さや課題について知るとともに、自分の考えを効果的に伝えるための情報を取捨選択し、適切に活用することができる。 【知識・技能】

○大宮のまちをより良い住み続けられるまちにするために、自分に出来ることを考え、協力して行動することができる。 【思考・判断・表現】

○自分たちが住んでいる地域に愛着を持ち、地域に主体的に関わろうとする。

【主体的に学習に取り組む態度】

3. 単元について

・教材観

本単元では自分たちの住む校区を教材として取り上げる。本校区は奈良市の中央部に位置している。校区には近鉄新大宮駅、JR 奈良駅がある。また京都、和歌山をつなぐ国道 24 号線や大阪と奈良をつなぐ第二阪奈有料道路も隣接している非常に交通の発達した地域である。そんな交通の便もあつてか、校区にはマンションが多く存在しており、大宮地区の人口は奈良市で 3 番目に多い。

またイトーヨーカドーや関西スーパー、イズミヤ、サンディ、中村屋などのスーパーマーケットが数多く存在し、その他の飲食店や薬局、コンビニエンスストアなど生活に必要な商店も多い。また市役所も校区内にある。

一方で、地域の人々に目を向けると、自治会への加入が少なかったり、単身や核家族の世帯が多かったりと、「人のつながり」という面に課題を抱えている。

そんな中本校区では、本校を中心に地域の方が主体となって「大宮まつり」、「餅つき大会」、「放課後子ども教室キッズ大宮」など地域の方や子どもたちが参加できる行事や取組が行われている。

・児童観

・指導観

指導にあたっては、まず自分たちのまちを見つめ直すところから始める。児童に自分たちの校区の良さや課題を挙げさせる。その中で良さは強みとして、課題は克服すべき点として、自分たちのまちづくりを考える際の視点とさせたい。

まちの現状が把握できたところで、自分たちのまちをどのようなまちにしていきたいかを考える。その際の視点が「住み続けられるまちづくり」である。どのようにすればこのまちがより良いまちに

なり、そして住み続けられるまちになるのかを考えさせたい。

ここでまず活用するのが東京書籍の国語科の教科書に載っている「コミュニティデザインを考える」である。この教科書を活用し、まちづくりの考え方や視点を学ばせたい。さらに児童のまちづくり視点を広げるために二つの聞き取りを取り入れる。一つは地区自治連合会長の方である。この方は先に述べた様々な行事や地域の活動に関して中心になっておられる人物である。この方からお話を聞くことでまちづくりのキーワードである「人のつながり」の視点を児童に獲得させたいと考えている。続いて保護者の方への聞き取りも取り入れる。これは子どものニーズだけでなくできるだけ幅広い年齢層のニーズを知るためである。そのため児童にとって身近である保護者の方からの聞き取りを取り入れる。

まちづくりの視点やニーズについて共有できたところで、では自分たちに何ができるのかを考えさせたい。この際に大切にしたいところは、小学校6年生の自分たちにできることである。他人任せにするのではなく、自分たちが率先して行動できることを考えさせ、実際に活動へとつなげていきたい。

活動後自分たちの活動の成果と課題について振り返り、交流する。そのことを通して学習後も児童が地域に対して関心をもち、継続して自分ができることを実践していこうという思いをもたせたいと考えている。

・ESDの観点

【持続可能な社会づくりの構成概念】

本単元では、児童にとってではなく小学校六年生なりに、町に住む様々な人にとって住みやすいまちを考えていく。自分たちのことだけを考えれば、大きな遊べる公園がほしいといった意見が出るのが予想されるが、お年寄りや子どもを持つ親、自分たちより小さな子どもなど、様々な立場の人にとって住みやすいまちについて考えることでより多角的にまちづくりについて考えることができる。そのために地域の方や保護者から聞き取りを行う。(公平性)

また地域の方から聞き取りを行う際には、今大宮のまちで取り組んでおられるまちづくりについても聞き取らせたい。そうすることで児童はまちづくりというのは多くの人たちが協力し、互いに連携しなければ行えないことに気付くことができる。(連携性)

そしてその多くの人たちが協力することの中には自分たちも含まれているのだということを、聞き取りや話し合いを通して自覚させ、自分たちのまちをよりよくしていくために、自分たちに出来ることを考え、活動させたい。(責任性)

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①大宮のまちの良さや課題について理解する。	①大宮のまちをより良い住み続けられるまちにするために、自分に出来ることを考え、協力して行動することができる。	①自分たちが住んでいる地域に愛着を持ち、地域に主体的に関わろうとする。

5. 単元の指導計画

主な学習活動	指導上の留意点	評価・備考
<p>○自分たちの校区について考える。①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの校区の良さを考える。 ・自分たちの校区の課題について考える。 	<p>この学習と並行して国語科で「町の幸福論ーコミュニティデザインを考えるーを扱い、まちづくりについて知らせる。</p>	<p>ウ①</p>
<p>○自分たちの校区の特徴について調べる。②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に詳しい方からの聞き取りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大宮のまちがどのようにしてできたのか、そしてどのような街になってほしいと願っておられるのかを聞き取りのポイントとする。 ・聞き取り後まちづくりのニーズを知るために保護者への聞き取りをさせる。 	<p>ア①</p>
<p>○聞き取った内容を整理する。③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのまちづくりの視点について考える。 <p>「安心・安全」 「環境」 「人のつながり・にぎわい」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特徴と地域の方の願いに分けて整理させ、その後地域の方の願いをグループピングさせる。 	<p>ア①</p>
<p>○各グループに分かれ、自分たちにできる活動について考える。④⑤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちに実践できることという視点で考えさせる。 	<p>イ①</p>
<p>○各グループに分かれまちのためにできることを行う。 ⑥⑦⑧⑨</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年を解体し、担当を3名に分け「安心・安全」、「環境」、「にぎわい」に分かれて活動する。 ・校外へ出る場合には安全面に配慮する。 	<p>イ① ウ①</p>
<p>○各グループで活動を振り返り、成果と課題をまとめる。⑩⑪</p>		<p>イ①</p>
<p>○まとめた成果と課題を交流する。⑫</p>		<p>イ①</p>